

このコーナーでは狛江市にある下水道施設などを紹介します

下水マンホール編



みなさんはこのマンホールを見たことはありますか？

これは、狛江市にある下水マンホールの1つです。実はマンホールというのは、自治体各々でオリジナルのものを使っています。なので、このマンホールは狛江市でしか見ることが出来ません！

狛江市では、下水道用のマンホールとして、現在3種類のマンホールを主に使っています。この写真のマンホールは、通称『雨水マンホール』と呼んでいて、雨水を流すための下水道管を管理する目的で、道路に設置してあります。マンホールの蓋を開けると人が入れるくらいの縦トンネルになっていて、必要な時はここから入り下水道管を点検したり修理したりしています。

狛江市の下水マンホールはこの他に、『汚水マンホール』と『合流マンホール』があります。今回は、この狛江市オリジナルのマンホールを紹介します。

雨水マンホール

雨水マンホールのデザインには、「多摩川」と、多摩川でよく見られる「コサギ」と、多摩川のほとりに立っている「五本松」がデザインされています。



この「五本松」は、狛江を代表する景観のひとつとして市民の皆さんに親しまれ、狛江のまち魅力百選、多摩川50景、新東京百景の一つにも選ばれている名所です。また、映画やテレビの撮影にもよく利用されています。



汚水マンホール

汚水マンホールのデザインには、市の花「ツツジ」と真ん中に市章がデザインされています。汚水マンホールは、生活排水などの汚水を流すための下水道管を管理するためのものです。



現在の蓋は色のついていないものが大半で、このような色つきの蓋は駅周辺にいくつか残っているだけとなっています。



合流マンホール

合流マンホールのデザインには、市の木「イチヨウ」がデザインされています。



合流マンホールは、雨水と生活排水などの汚水を一緒に流すための下水道管を管理するためのものです。

この3種類の他にも下水マンホールのデザインはいくつかあります。狛江駅ロータリーにある安丸マンホールもその1つ。

